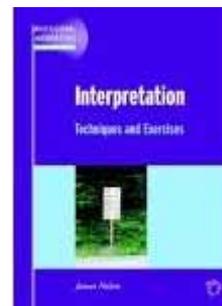


## *Interpretation: Techniques and Exercises*

著者 James Nolan  
出版社 Multilingual Matters  
出版年 2005 年  
頁数 320  
ISBN 1-85359-791-0 (ハードカバー)  
1-85359-790-2 (ペーパーバック)  
評者 鶴田知佳子 (東京外国語大学)



この本は、会議通訳が職業としてすでに成年期を迎えたのに、通訳訓練コースはカリキュラムや訓練マニュアルが必ずしも整備されていないという認識から、包括的シラバスを提供し、授業で行う演習を提供することを目的としている。さらに、現役通訳者にとっての実践的なガイドとなるように、また特に国際機関やビジネス場面で通訳をすることを目指す学生のことを考えた、としている。

著者は AIIC (国際会議通訳者協会) の会員であり、国連で仕事をする通訳者である。また Marymount Manhattan College と New York University で通訳を教えている。A 言語が英語、C 言語がフランス語、スペイン語というだけあって、演習はこの3つの言語で行うことを想定しているが、ほかの言語でも行うことができるものであると断っている。

本の構成は次のようになっている。序章として通訳についてよく聞かれる質問を項目別にまとめてあり、これも通訳論の最初の授業などでは役立つであろう。続いて第1章：スピーキング、第2章：準備とスピーカーを予測する、第3章：複雑なシンタックスと圧縮、第4章：語順と語群、第5章：全般的副詞節、第6章：翻訳不能性、第7章：比喩的描写、第8章：論証、第9章：語法とレジスター、第10章：改まったスタイル、第11章：政策演説、第12章：引用句・引喩・転位、第13章：政治談話、第14章：経済談話、第15章：ユーモア、第16章：ラテン語からの言い回し、第17章：数字、第18章：ノートテキングとなっており、巻末に文献リストがある。

国連で仕事をしているためか、記述は国連公用語の5言語(英語、フランス語、スペイン語、中国語、アラビア語)についての例が多いが、ところどころ日本語の例もあげられている。全体として、通訳の教育・訓練に必要な項目を網羅した上で、練習問題の部分が圧倒的に多い。記述の順番は、身につけるのに時間がかかり常に勉強を続けるべき項目を先にし、授業とは別に勉強できる項目を後にあげている。

本書には、筆者の現役通訳者としての知恵がちりばめられている。序論で、通訳者

は口頭で話す能力が問われる仕事であるが、文章を書ける能力も必要であるとして、文章を書くことも演習にとりあげている。その点は大いに共感する。通訳者に必要な能力である論理的にロジックを追う訓練を積むには、文章を書くことは有効であるからだ。一般論と断りながらも、翻訳経験は通訳者としての基礎を作るのに適しているとしている点も共感できる。

また、パブリックスピーキングの能力は通訳者として不可欠であるという理由から、それが第一にあげられている。ここでの練習問題は、新聞記事の中から大事な項目をとりだし、自分でそれにコメントするスピーチを書いてテープレコーダに吹き込み、説得力のあるスピーチになっているかどうかを検証する、というのが最初の問題である。この練習方法は、読むことによる知識の獲得、それを自分の言葉で簡潔にまとめることによる考える力と書く力の養成、およびパブリックスピーキングの訓練といった多面的な要素を含んでおり、実際に通訳クラスに導入すると効果があると思われる。

このほかに参考になりそうな練習として次のようなものがある。第2章であげている、同じ文章を違った状態——たとえば怒っている、満足している、イライラしている、不思議に思っている、懐疑的である——で、それぞれどう発話のしかたが違うのか体験させる練習、第4章で出てくる、英語にありがちな形容詞がたくさんついた名詞句の訳出練習（たとえば *people-centered grass-roots capacity-building initiatives* や *insecticide-resistant mutating crop-destroying insect pest* といった表現の訳出）、第6章の翻訳が難しいフレーズの訳出練習、第7章の比喻表現や諺をどう訳出するのがよいかを検討する課題、換称（たとえば *the windy city*, *the middle kingdom*）をどう表現するかの練習、人体に関するイディオムの訳出練習、第9章の語法とレジスターの練習、第12章の引用句の訳出練習、第14章の経済についての言い回しの慣用表現練習、および第16章のラテン語からの言い回しの練習などは特に役に立つものと思われる。特に第7章と第9章は頁数も多く、いわゆる *stock phrase* 決まり文句が網羅されていて、現場で遭遇したときにどう訳出するのかの準備ができる。また、第17章では間違いやすい数字の訓練、第18章ではノートテキングの際によく使われる記号類の例があげられていて、たいへん参考になる。

通訳とは内容を理解して意味を伝えることだ、という著者の信念が全体から伝わってくる。欲を言えば、いわば「講義」の部分が少なく練習問題が多いため、英語以外の言語の練習問題を使わない読者は無駄と思う部分が多いかも知れないが、英語部分を日本語にする練習だけでも十分訓練ができる本として、お勧めしたい。

---

著者紹介：鶴田知佳子(TSURUTA Chikako) 東京外国語大学教授。日本通訳学会理事。AIIC(国際会議通訳者協会)会員。コロンビア大学経営学大学院卒業。経営学修士(MBA)。NHK-BS、CNN 放送通訳者、会議通訳者。実践に役立つ通訳教育法に関心を持つ。

---